

ふちゅうじょうあと 12. 府中城跡

所在地：越前市府中一丁目 114 番地 1

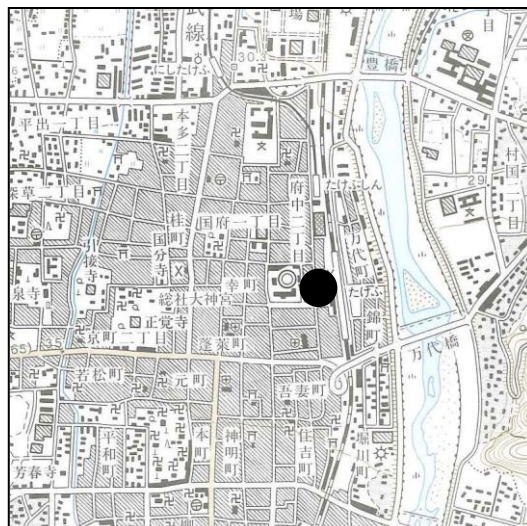
調査原因：越前市役所本庁舎建設工事

調査期間：平成 28 年 8 月 28 日～平成 29 年 8 月 10 日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：4,268 m² (2,134 m²×2 層)

時代：近世



位置図 (S=1/25,000)

調査の概要 調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の「府中城跡」の範囲に含まれます。

事前の試掘調査で、遺構・遺物が発見されたため、本調査を実施しました。主な遺構、遺物は以下のとおりです。

主な遺構

<第一層目> 駐車場舗装面から 60～100 cm 下で検出されました。

(1) 基礎石 (3 個、直径 30 cm)

基礎石表面には亀裂が確認され、火災の熱を受けて生じたものと考えられます。基礎石中央部は、柱が据えられていたためか変色が見られませんでした。このことから柱の太さは 15 cm 程度と推定できます。

(2) 石組遺構 (1 か所 長さ 5.0m、幅 2.5m)

石組の壁に屋根をかけて倉庫として使用していたものと考えられます。炭を多く含む黒色土で埋まっていたことから、この建物は火災により焼失したと考えられます。

(3) 石組溝 (1 か所 長さ 15m、幅 3.0m)

旧武生東小学校校舎の布基礎に一部が重なる状態で検出されました。両壁に石組をもつ溝状遺構で、水路のような役割を果たしたと考えられます。

<第二層目> 駐車場舗装面から 70～150 cm 下で検出されました。

(1) 石垣 (長さ南北 35m、高さ 1.0～3.5m)

第一層目で検出された石垣をさらに掘り進めたところ、石垣が確認できました。また、中央部では石垣 (長さ 9.0m、高さ 3.5m) を伴う張り出し部分が確認できました。この部分を除却したところ、背面から石垣が検出され、裏込めから遺物が出土しました。遺物は持ち込まれて混入した可能性があることから、遺物のみから石垣の築造年代は断定できませんでした。

(2) 池状遺構 (東西 7.0m、南北 15.0m)

一部は石で囲まれており、内側の一部には河原石が敷かれていました。河原石の下には粘土を貼って水漏れを防いだ跡があり、池であった可能性があります。この遺構の南側に

は溝があり、形状から排水溝であると推定されます。

(3) 礎石群（3か所）

今回の発掘調査で検出された礎石群3か所のうち、一番大きなものは、東西9間、南北7間（1間は140 cm間隔）でした。礎石群の上面には赤く変色した土が堆積し、建物は火災によって焼失したものと推定されます。

主な遺物 第一層目からは、かわらけや石製品、近世陶磁器、瓦など、遺物整理箱で137箱分の遺物が出土しました。時代としては江戸時代後期のものと推定されます。第二層目か

からは、かわらけ、石製品、近世陶磁器、瓦など、遺物整理箱で73箱分の遺物が出土し、江戸時代前～中期頃のものと推定されます。

まとめ 本調査では遺構を伴った層を2層検出し、一層目は江戸時代後期、二層目は江戸時代前～中期頃と考えています。平成26年度に実施した試掘調査、及び今回の調査中に実施した二層目下層の試掘調査、井戸の断ち割り調査からは、二層目下に遺構を伴う層は確認できませんでした。

今後は、本調査地の西側に隣接する立体駐車場建設に伴う府中城跡H地点の発掘調査と合わせて、整理を進めていく予定です。



調査地全景



池状遺構



石垣